アナキストって何？

アナキストが対抗し闘争するもの

— 国家；総務、経済、政治、軍隊等の様々な面における中央集権的権力構造
— 政府；国家の政治指導権を握り圧制、搾取、支配等に関する全決断を下す
— 資本主義；生産関係、個々の資本家、彼らの行動やプジェクトかつ彼らの資本主義への遵守という潮流
— 国家・資本の構造を細分化していったところの部品となるもの； 警察、司法制度、軍隊、学校、新聞、テレビ、組合、巨大な多国籍会社
— 国家構造が基盤を置きその核として欠かせない家族制度
— 政界；全ての政党、中産階級民主主義の具現化である国会、実際の社会問題を仮面で隠す政治理念
— 極右主義者（ファシスト）とその他全ての国家と資本によって使われる抑圧手段
— 宗教と政府の抑圧に同盟する可能性のある教会
— 人々を抑圧するために使われる武力である軍隊
— 搾取された階級の中でも最も貧しい者達の抑圧を組織化する刑務所
— 他と異なる者たちを抑圧する収容所

アナキストが対抗する偽の考え方

— 社会問題を法律、政党、国会、国民投票、選挙などによって良くしようとする改良主義に反対。
— 人を常に働く従順な機械へと貶める効率主義に反対。
— 抽象的な概念としての人間の平和と安全を訴え、階級の敵を攻撃するための具現的な行動にでない人道主義（博愛主義）に反対。

— 搾取されている者たちによる正当な暴力—彼らの持つ唯一の解放のための武器である—を禁止する非暴力主義に反対。
— 他の国よりも自国を愛すというおかしな考え方を助長する国粋主義に反対。搾取されている者には母国は無くとも全世界にその兄弟を持つ。
— 自国の防衛が役目という詐欺な名目で軍隊の役割を正当化する軍国主義に反対。
— 人類の一種を劣等と定義する人種主義に反対。
— 女性を性的対象に還元する男性優越主義に反対。
— 息の詰まるような男性優越主義を裏返しにした自閉的フェミニズムに反対。
— 搾取されている者達を直接行動から切り離す代表性に反対。
— 社会の成層化に繋がる階層制度主義に反対。
— 個人の特性を抑圧する従順さに反対。
— 個人の自治・独立の発展を妨げる権威・権力に反対。
— 改良主義の概念上のカバーにすぎない進歩主義、進化論の現代版に反対。
— 階級搾取の歴史の中心に経済があるとする経済主義に反対。
— 経済主義の直接的産物であり、階級闘争を仕事の現場レベルに留めることになる労働連合主義に反対。アナコシンディカリズムでも、その全革命的声明を持ってしてもこの改良主義の限界を逃れはできない。

アナキストが望むこと

— 国家、政府、資本主義、家族制、宗教、軍隊、刑務所、収容施設、憲法により人々に行動を強要するその他全ての権力形態の排除。それゆえ、労働者の国家、又は社会主義国家、プロレタリア階級による独占政治も拒絶。
— 土地、道具、原料、機械、工場、その他生きるのに必要な物の生産に必要な物資の私有化を無くす。
— 給料制の仕事を無くし、仕事を最小限に減らし、各々の人のニーズとお互いの適性や共感をベースにして仕事を編成すること。
— 伝統的な家族制を廃止し、相互間の愛と類似性、真の意味で性の平等をベースにした共同生活。
— 直面している問題や、守りたい利益、延ばしたい類似性を基に自由にグループを作り、それをベースにし、生活（生産的過程など）を組織化すること。そして、このような組織化したグループが、地域ごとコミューンごとに作られ、徐々に大きな連

合にと広がり、最大に達し、地域の自由化・改革へと繋がること。

— 個人をその適性に目覚めさせることを目的とする自由な教育。個人の適性への目覚めとは、解放された社会の解放の程度によって意味をなす。

— 無宗教、或いは、反宗教主義のプロパガンダを広げること。これらの問題については、宗教がもたらす解放でさえ限定された説明しかできないから。

— 人の人による支配が全て廃止されるまで社会革命を貫徹すること。

アナキストが使いたい手段

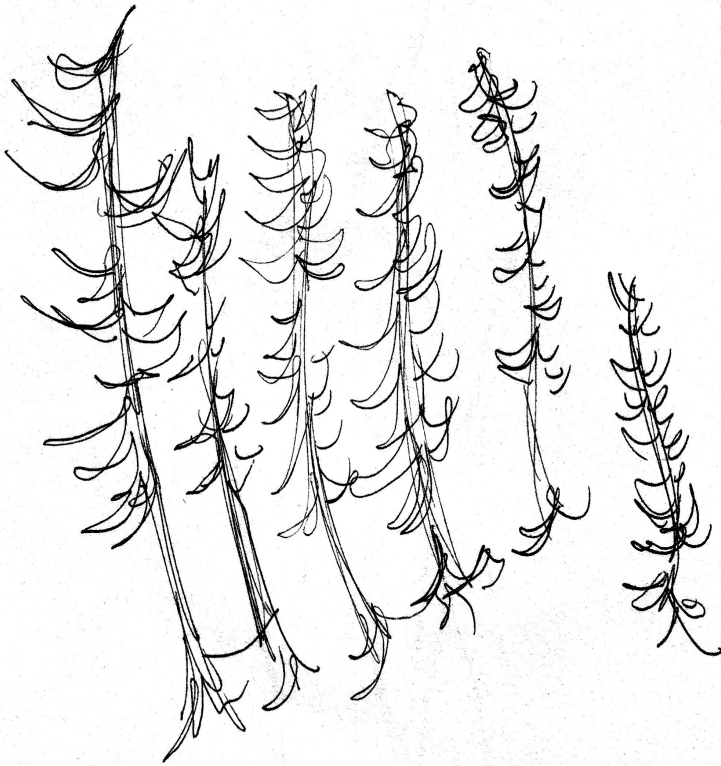
— 特別なアナキストの組織、個人的かつ政治的に類似性があり、問題意識の高い個人から形成される活動的な少数グループ。搾取されている人々に、革命を目指した自己組織の作成を呼び掛ける。

— 異なるアナキストグループからなる連合。個々の構造を変えることはせず、お互いの行動を調和させるための非公式な連合協定で結ばれる。

— 本、パンフレット、新聞、ビラやグラフィッティを使った宣伝運動。支配構造の意図と搾取されている人々を取り巻く危険を説明する。又、アナキスト闘争を表面化し、アナキストとはどのような人を言うかを示し、搾取されている人々に反抗運動を促し、追従と放棄がもたらす結果を否定する。

— より良い状況を求めるための闘争。アナキストは改良主義者では無いが、個人の手近な状況（給料、住処、健康、教育、職業上の事など）を改良するための闘争には、それを最終目的としているわけではないが、アナキストも関わっている。このような形の闘争への参加を搾取に合っている人々に促し、彼等が自己組織化へ繋がるような要素を発展させ、あらゆるレベルで直接行動を発展させるために欠かせない代表者制の拒否ができるようにする。

— 搾取に合っている人々と共に社会革命を実現するための暴力を伴う闘争。労働階級の敵（国家、政府、資本主義、教会など）への攻撃は、暴力的でなければならない

。でなければ、非生産的なプロテストにすぎず、階級支配を強化することになる。このための攻撃には次のようなものがある。

a) 抑圧に責任のある個々の組織構造や人々に対する個別の攻撃
b) ある少数グループによる攻撃
c) 大衆による攻撃
d) 大衆による革命につながる攻撃

これら各レベルは、最初から見ていって、次レベルへ発展するような状況に繋がることもあるし、繋がらないこともあるだろう。政治的・経済的批評によりその可能性を予測することもできるが、ある限度に限られ、絶対的な評価は不可だ。行動自体のみが行動の試行となる。暴力を伴う闘争の道徳的説明は、何世紀にも渡り権力者・組織により抑圧を強いられてきたという事実で既に明らかであろう。

「Revolution, Violence, Anti authoritarianism」by Alfredo M. Bonnano より抜粋、翻訳

> Anti-Copyright Network <
Produced in November 2006_

325@hush.ai
325collective.com
elephanteditions.net

325mail, c/o
ABC, PO Box 74,
Brighton, BN1 4ZQ, UK

RESIST / ORGANISE / REPLICATE